



# すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

令和2年1月8日 No. 507

## 体験から生まれるもの ～杉七タイムを通して～

校長 齋藤 瑞穂

2020年、令和となって初めてのお正月を、ご家族皆様で清々しく迎えられたことと存じます。

今年は暦の並びがよく、例年に比べ、年末年始を連続でゆっくり休むことができた方も多かったのではないのでしょうか。子供たちも約2週間の冬休み、お家の方へたっぷり甘え、楽しい時間を過ごしたことでしょう。

さて、今年は子年です。

大人は一般にあまり良いイメージをもっていないネズミですが、子供たちにとっては、ミッキーマウスやトムとジェリーのジェリー、ぐりとぐらなどのように、可愛くてすばしく、賢いキャラクターが連想されるのではないのでしょうか。ハムスターはペットとして人気ですし、よく知られている寓話によれば、十二支の始めがネズミなのはその知恵によってです。

そして、「子」の漢字はそのまま、「子供の子」です。子供たちが賢く知恵を働かせ、元気に活躍する、そんな年にしていきたいものです。

今年度、杉七小創立90周年を記念して、生活科と総合的な学習の時間を「杉七タイム」としたことはすでにご存じのとおりです。併せて、教員による校内研究も、杉七タイムの単元開発を行っています。100周年を見据え、今後10年間、杉七小に学ぶすべての子供たちに、地域に根差した共通の学習体験をもたせたいという願いからです。これまでも杉七小の伝統として取り組んできたものを含め、これからの子供たちに必要な力を育てるために、内容を吟味・精査し、カリキュラムを再編成しているところです。

例えば5学年は、環境を大きなテーマに「阿佐ヶ谷の町 環境プロジェクト」と題して学習を進めています。その中で、杉七伝統の「杉七盆踊り」や「阿佐ヶ谷七夕まつり」で出されるごみに着目しました。どちらも、子供たちにとって身近で大

好きな行事です。いつまでも続けていくためには環境負荷を最小限にする必要があり、自分たちに何ができるだろうと真剣に考え、話し合いました。盆踊りでは、実際に「ごみ減らし隊」としてごみの分別を呼びかけ、その活動を通して、さらに食品ロスやプラスチック容器などにまで問題意識を広げました。そして、子供たちなりにごみ減量への提言や仮説をもち、パールセンター商店街の河村理事長から七夕まつりでの具体的なごみ対策を伺うことで、自分たちの学習の深まりを実感しました。

「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手になることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指す」——来年度完全実施となる新学習指導要領に示された文言です。これは、学校教育全体で取り組んでいくことですが、特に本校において「生きる力」は、「杉七タイム」によって着実に身に付き、磨かれているように思います。

情報化の進展により、子供たちはネット検索などで簡単に知識を得られるようになりました。ごみ問題一つとっても、ネットで調べれば、様々な課題から対応策まで、膨大な情報が瞬時に手に入ります。しかし、その知識や情報は、ここではないどこか遠くのもので、それだけに軽く、もろいものです。一方で、時間はかかっても、子供たちが体験を通して実感し、そこから自分の頭を使って考え、試行錯誤しながら獲得する知識は、結果としてネット検索したものと同様のものであったとしても、その重みが違う「生きた知識」です。「生きる力」は「生きた知識」によってこそ支えられるのではないのでしょうか。

令和2年も、杉七小は「杉七タイム」を中心に「生きる力」を育んでいきます。変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 90周年をむかえて



杉七小のホームページが新しくなりました。毎月の行事や、杉七タイムの取り組みの様子などがお伝えできるよう、随時更新していきます。ぜひご覧ください。

<https://www.suginami-school.ed.jp/sugi7shou/>

